

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 50号

2013/05/27 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：引き続き先週とほぼ同じレンジ内での取引。上値は投機筋の売りで抑制

①週最高：LDN 市場 £ 1,575 / NY 市場 \$2,345 (5月21)	先週比 LDN+ £ 7 / NY - \$8
②週最低：LDN 市場 £ 1,529 / NY 市場 \$2,246 (5月24日)	先週比 LDN+ £ 3 / NY - \$48
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 46 (傾向↓) / NY 市場 \$99 (傾向↓)	
週内建玉推移：LDN 市場 240,795 枚⇒244,100 枚 (+3,305 枚)	
NY 市場 221,070 枚⇒223,938 枚 (+2,868 枚)	

【5月20日(月)】ロンドン、反落=ニューヨークは小幅続伸
ロンドン市場の7月きりは反落、11ポンド(0.7%)安の1538ポンドで引けた。一方、ニューヨーク市場の7月きりは小幅続伸、1ドル高の2301ドルで終了した。
アナリストやトレーダーらは、市場の関心は、西アフリカ諸国のメインクロープにシフトしつつあると指摘。ただ生産高を予想するのは時期尚早だとの見方も示している。ある欧州のアナリストは、4月は着さやに向けた生育環境が良くなかったとしながらも、「5月の降水量は、4月に比べかなり改善した」と述べた。

【5月21日(火)】両市場とも急伸
両市場とも急伸。ニューヨーク市場の7月きりは44ドル(1.9%)高の**2345ドル**で引けた。相場は今月3日に5カ月ぶりの高値となる2437ドルを付けた後、値を下げていたが、ここにきて調整に入っている。
アトランティック・キャピタル・アドバイザーズのニック・ジェンタイル氏は「買い手はポジションを守ろうとしている」と述べた。
西アフリカ諸国の降雨を受けてメインクロープの見通しが改善していることから、上値は抑えられた。ロンドン市場の9月きりは29ポンド(1.9%)高の**1575ポンド**で取引を終えた。テクニカル的には両市場ともまちまちだが、ディーラーはロンドン市場の方が強気との見方を示している

【5月22日(水)】両市場とも反落

両市場ともに反落。ニューヨーク市場の7月きりは28ドル（1.2%）安の2317ドル、ロンドン市場の7月きりは7ポンド（0.4%）安の1562ポンドで引けた。ある市場関係者は「テクニカル要因で上げてきたが、値固めしている」との見方を示した。

【5月23（木）】両市場とも続落

両市場ともに続落。テクニカルな要因が背景。ニューヨーク市場の7月きりは34ドル（1.5%）安の1トン=2283ドルで引けた。

ある市場関係者は「これまでは好調な動きだったが、チャート上では危険な領域に入っている。ヘッド・アンド・ショルダーの形を作りつつある」と指摘。2300ドルを下回ったことで、2200ドルまで一段の下落の可能性があるという。ロンドン市場の7月きりは25ポンド（1.6%）安の1537ポンドで引けた。

【5月24日（金）】両市場とも3日続落。

両市場ともに3営業日続落。

ニューヨーク市場の7月きりは37ドル（1.6%）安の2246ドルで引けた。

主要産地のコートジボワールでの収穫高見通しが改善し、同国からのココア製品の輸出が予想を上回る見込みとなったことが重しになった。ディーラーによると、40日間移動平均を割り込むと投機筋による手じまい売りが加速したという。ロンドン市場の9月きりは、18ポンド（1.2%）安の1526ポンドで終了した。

2、コートジ：12年10月～13年4月のカカオ豆輸出、前年比9%増（5/21）

21日に公表されたコートジボワールの港湾暫定データによると、2012年10月～13年4月における同国のカカオ生豆輸出量は合計で89万4494トンと、前年同期（81万9482トン）比9%増加した。内訳はアビジャン港が5万8812トン（前年同期は2万6418トン）、サンペドロ港が5万1011トン（同3万2645トン）。

3、コートジ：ミッドクロープのカカオ豆、降雨で生育状況改善（5/20）

コートジボワールの主要カカオ豆産地の大部分は定期的な降雨と豊富な日照に恵まれており、乾燥天候で波乱のスタートを切ったミッドクロープ（4～9月）も、生産者の間では収穫に向けて楽観的観測が広がっているという。生産者やアナリストらが20日、語った。

同国政府は、輸出向けカカオ豆の基準を100グラム当たり=120粒以下としているが、先週は大量の豆が規格外と判定され、農家や輸出業者から懸念の声が上がっていた。西部ソブレでは天候とともに豆の品質も改善し、ある農家は「降水と日照に恵まれ、樹木の生育は順調だ。豆も大きくなり、100グラム当たり=110粒になることもある」と述べた。（

4、コートジボワール産カカオ製品の10～4月輸出数量、前年対比15%増加(5/22)

2012年10月から2013年4月までのコートジボワールからのカカオ製品の輸出数量合計が228,773トンとなり、前シーズンの同時期と比べて15%上昇となっていることが判明した。

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールのカカオのシーズンは毎年10月に始まり9月で終了する。

2008年からの同国へのカカオ豆の磨砕設備への投資が増大し同国の世界における磨砕数量の市場シェアは一気に拡大した。

2010年にはオランダを抜いて、カカオ豆の年間磨砕可能数量で世界のトップになった。同国内のカカオ磨砕工場のキャパシティの合計は現在532,000トンと言われており、その多くはココアパウダーとココアバターへ製造される。

現在のところ、同国内での磨砕数量はカカオ豆の生産数量の約35%程度であるが、同国の目標では年間のカカオ生産数量の半分を国内で磨砕しカカオ製品として輸出することを、現在カカオ産業全体の構造改革を実行しながら目指している状況だ。

下記の統計は、同国のカカオ製品の公式な輸出統計である。

港／月	<u>4月 2013</u>	<u>3月 2013</u>	<u>4月 2012</u>	(単位：トン)
Abidjan	20,488	32,913	14,392	
San Pedro	10,495	10,362	8,245	
月間合計	30,983	43,275	22,637	
年間合計	228,773	197,790	199,392	

5、欧州市場) チョコレート企業はカカオ製品の購買を引き延ばし。相場下落で(5/25)

欧州のチョコレート企業は今週後半、3日連続でカカオ相場が下落したのを受けて、更なる値段の下落を期待してカカオ製品の購入を先延ばししている、とトレーダー筋の話から判明した。

LIFFE＝ロンドン市場の2番月にあたる9月は今週火曜日の終値から3%近く下落した。『カカオ製品に対する需要はあるが、バイヤー側は市場価格が下落するかどうかを見極める為に待っている状態だ』欧州のトレーダーは言う。

『チョコレート企業は6-7カ月分の原料需要を既に抑えているが、これは若干少なめの方だ』トレーダーは、先物のカバーについては少なめの企業、多めの企業と其々であり、平均化すると、ということであるが、と付け加えながら説明した。

また、トレーダーは、世界経済の停滞はチョコレート企業が通常より少ない在庫を保有することを助長していると説明する。

『もし、現在の経済状況を見れば、行きすぎた多めの原料の購買は企業にとって好ましい事ではなく、余剰原料在庫に資金を使用したくないし、需要の減退で原料が余ることも問題である』トレーダーは続ける。

ココアバターの価格は今週ロンドンの先物市場価格に対して、直近のデリバリーで2.15～2.2であった。

(先週は2.22)

しかしながら、現在1か月前に記録した1.98レシオより高いレシオが続いている。

『バターレシオの高騰はいくばくかは落ち着いてきている』トレーダーは感想を述べた。また一方ココアパウダーの方は相変わらず需要の方は強くなっていかない状況が続いているが、この数カ月間で徐々に下がってきた価格自体は安定してきている。

『チョコ業界の関係者はまだココアパウダーとココアケーキの販売には苦戦をしている状況のようだ』あるトレーダーは言う。コートジ産のカカオ豆に対してのプレミアムは7月のロンドン市場価格に対して+£60よりも更に少し高い水準となっており、先週の+£55からは上昇している。

世界最大のカカオ豆生産国であるコートジは良くない品質のミッドクロップビーンズに対して高いプレミアムである為、入札で多くの引き合い、興味を集めることが出来なかった。

ミッドクロップのカカオ豆は一般的にはメインクロップに比べ、小さく、品質も劣る。『コートジ産のミッドクロップのプレミアムは、ロンドン先物価格に対してマイナスでなければならないが、現在コートジ産カカオは+60£で以上で取引されている』トレーダーは現状を説明した。

6、カメルーン産カカオ豆輸出数量13%上昇(5/24)

世界第5位のカカオ生産国であるカメルーンは4月末までに189,149トンを出し、前年の同時期までの輸出数量167,941トンと比較して13%の増加となっていることが国立ココア&コーヒーボードの統計資料で判明した。

4月単月では、カメルーンは全体で5,849トンを出し、前年の4,492トンよりも増加した。

内訳は、Olam Cam社トップで1,765トンの輸出、Ets Ndongo Essombaが1,705トンの輸出、Union Trading International (UTI)が1,001トン其々輸出した。

カメルーンココアのシーズンは8月1日から開始し7月31日までで、メインクロップの収穫は10月から1-2月まで、ライトクロップの収穫は4月/5月から7月まで続く。

中央アフリカに位置するカメルーンは前シーズンにあたる2011/2012シーズンは長引いた乾燥と、害虫や疫病の影響を受けた結果、2010/2011シーズンの200,083トンから減少し180,000トンの輸出数量となった。

しかしながら今シーズンは、理想的な気候状況と政府が生産者に対して科学肥料や殺虫剤や防カビ剤の購入を支援した効果が出て生産予測が上昇している。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp